

AI制作・架空の製造業A社向けサンプル。実施済みのイベントではありません。

WORK SAMPLE 02 / DOCUMENT 1 OF 4

半日仕事体験プログラム

「見学」から「自分で考える」へ。

対象モデル：滋賀県の製造業A社（架空）／参加人数・年齢・安全条件は実施時に個別設定。

体験の目的

仕事を判断する材料を持ち帰る

知識の獲得だけでなく、働く人の工夫や関わり方を知る。

設計の前提

約3時間30分・実習は安全範囲

危険作業は見学・模擬体験に置き換える。

当日の流れ（例：13:00 - 16:30）

時間	プログラム	参加者が確かめること
13:00 - 13:20	導入・安全説明	今日知りたいことを一つ決める
13:20 - 14:00	仕事の流れを見学	工程のつながりと職種の違い
14:00 - 14:40	安全な模擬作業	品質を守る工夫、判断の難しさ
14:40 - 14:50	休憩	疑問の整理
14:50 - 15:35	社員との対話	仕事選びで気になることを尋ねる
15:35 - 16:05	振り返り記入	想像と違ったこと／知りたいこと
16:05 - 16:30	共有・次の接点	企業と参加者、それぞれの問いを残す

成果物として企業に残るもの

プログラム案

目的・時間配分・体験内容を記載

進行マニュアル

担当者・安全・運営の注意点

振り返り資料

参加者と企業の学びを整理

本書は「完成例D」の納品物イメージです。学生の参加人数・日程・契約範囲・費用は個別確認が必要です。

運営マニュアル見本。実施時は現場の安全管理者と必ず確認してください。

WORK SAMPLE 02 / DOCUMENT 2 OF 4

受入れ・進行マニュアル

企業側で必要な準備を、担当者が迷わない順番で整理するためのサンプル。

当日までのチェック

- | | |
|--|---|
| ☐ 参加者の人数・配慮事項・連絡方法を確認 | ☐ 説明資料・配布資料を準備 |
| ☐ 危険箇所と立入禁止区域を指定 | ☐ 写真・撮影・公開許可の範囲を確認 |
| ☐ 実際に触れる道具を安全なものに限定 | ☐ 緊急時の集合場所と担当を決める |
| ☐ 質問を受ける社員を決める | ☐ 振り返りの集め方を確認 |

役割分担（仮想例）

担当	役割
企業・受入責任者	現場の安全判断、進行可否の最終判断、スタッフ配置。
企業・現場社員	仕事の説明、安全な模擬体験、実際の質問への回答。
Re-birth担当	企画調整、進行サポート、問いの整理、振り返り設計（契約範囲内）。
参加者	安全指示の遵守、観察、質問、振り返りへの協力。

進行時の基本姿勢

避けたい説明

「うちはみんな仲がいい」「やりがいがあります」だけで終えること。

伝わりやすい説明

「今日の工程で誰が何を確認し、失敗を防ぐためにどんな工夫をしているか」を実物と結びつけて話すこと。

トラブル・個人情報

体験を中断する判断は安全を最優先に行う。写真・録音・発言の外部公開は、本人と関係先の適切な許諾がない限り行わない。

記入用の振り返りシート見本。回答は本人の判断を尊重し、採点に使用しません。

WORK SAMPLE 02 / DOCUMENT 3 OF 4

仕事体験 振り返りシート

知識の確認ではなく、「何を知ったか」「まだ何がわからないか」を次につなぐシート。

実施日： 年 月 日

体験テーマ： _____

1. 体験する前、この仕事をどんな仕事だと思っていましたか？

2. 実際に見たり聞いたりして、想像と違ったことは何ですか？

3. 働く人が大切にしていた工夫や考え方を一つ挙げるなら？

4. この仕事について、まだ知りたいこと・不安なことはありますか？

5. 仕事選びのために、次に確かめてみたいことは？

書きづらい質問は空欄でも構いません。回答は本人の同意がある範囲で扱います。企業への返却では個人情報の取扱いに配慮します。

社員向け説明資料の見本。実際の実施内容・安全ルールは各企業で確定する必要があります。

WORK SAMPLE 02 / DOCUMENT 4 OF 4

社員向け事前説明

参加者に「会社を好きになってもらう」よりも、「仕事内容を判断する材料を持ち帰ってもらう」ことを目的にします。

今日、参加者に届けたいこと

1

仕事の実像

何をつくるのか、どんな場面で判断が必要か。

2

働く人の姿

チームでどう相談し、助け合っているのか。

3

入社後の見通し

できるようになるまでの段階と支援。

学生と話すときのヒント

よい問いかけの例

「見学前と違ったところはあった？」 「どんな場面が難しそうに見えた？」 「もっと知っておきたいことは？」

意識したいこと

良い面だけでなく、難しい面も誠実に話す。進路を決めさせるのではなく、自分で考えるための材料を増やす。

当日の確認事項

- ☐ 安全担当者の判断に従う
- ☐ 職場の秘密情報・個人情報を見せない
- ☐ 撮影・発言の公開は同意範囲内にする
- ☐ 体験後、参加者の質問から企業側も学ぶ

企業に残る価値：「一度きりのイベント」ではなく、次の受入れにも活用できる設計・運営資料を整えること。